

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成20年 3月15日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4677300065
法人名	社会福祉法人 内之浦会
事業所名	グループホーム銀河の里
所在地	鹿児島県肝属郡肝属町北方576番地 (電 話) 0994-31-6623
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成 20 年 3 月 15 日

【情報提供票より】20年2月28日事業所記

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 8 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 5 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	9.46 人

(2)建物概要

建物構造	木造コンクリート瓦葺平屋建て 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780 円		

(4)利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名
要介護3	6 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	86.8 歳	最低 79 歳	最高 99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	肝付町立病院 おかの歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木をふんだんに使用した温かみのある建物である。また、高い天井や大きくとられた窓から自然の光が入り、明るく清潔感がある。窓からは国見連山や自然を身近に感じられる田園風景が広がり、静かで落ち着いた雰囲気漂っている。管理者と職員は利用者一人ひとりの意見を尊重し、外出や農作業の時間などを取り入れ、日々の生活において利用者が快適に、楽しみごとをそれぞれ持ちながら過ごせるように支援している。また近々ホーム隣に地域交流センターが開設予定であり、地域との繋がりをより期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	運営理念については、見学や契約時において利用者や家族等にわかりやすく説明している。また運営推進会議には市町村の担当者も参加し、顔なじみの関係ができています。気軽に相談や問い合わせ等を行っており、市町村との連携を図っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	全職員で自己評価を作り上げ、日々のケアを振り返っている。また今回の自己評価で浮かび上がった課題については、職員間で話し合い、改善できるように努めている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、市町村担当者・家族会代表・地域住民・管理者・職員等が参加している。会議は状況報告をするだけでなく、ヒヤリハットや認知症の人が地域で安心して暮らすことについても話し合う場とし、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目②	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	訪問時には必ず家族に声をかけ、意見等を気軽に話してもらえぬ雰囲気作りを努めている。また家族会代表者も出席している運営推進会議で、ヒヤリハットについての報告をするなども公開し、その都度出された意見は職員で検討し、日々の業務に反映するように取り組んでいる。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	地域の文化祭や農林業祭などに参加し、近隣住民と交流する機会がある。また保育所の慰問や職場体験学習など世代間交流も行っている。現在外出する機会が多いものの、ホームに地域住民が訪ねてくるような機会が少ない。近々ホームの隣に地域交流センターが開設予定とのことなので、今後の取り組みを期待したい。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で話し合いのもと理念を作り上げ、理念には「地域の中でその人らしく暮らし続ける」という視点を盛り込んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を見やすい場所に掲示するだけでなく、ミーティングや職員会議などで、日常的に理念に立ち返ってケアについて話し合い、実践にむけた取り組みを行っている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭や農林業祭などに参加し、近隣住民と交流する機会がある。また保育所の慰問や職場体験学習など世代間交流も行っている。	○	行政監査でも指摘されたとおり、現在ホームに地域住民が訪ねてくるような機会が少ない。近々ホームの隣に地域交流センターが開設予定とのことであるので、今後の取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、日々のケアを振り返っている。また今回の自己評価で浮かび上がった課題については、職員間で話し合い、改善できるように努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、行政担当者・家族会代表・地域住民・管理者・職員等が参加している。状況報告をするだけでなく、ヒヤリハットの事例検討や認知症の人が地域で安心して暮らすことについて話し合う場になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは顔なじみの関係であり、気軽に相談や問い合わせ等を行っている。またお互いに連携を図りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを作成すると共に、訪問時には写真を見てもらいなど、日々の暮らしぶりが分かるように報告している。また収支報告は、毎月確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時には必ず家族に声をかけるようにし、意見等を気軽に話してもらえる雰囲気作りに努めている。また運営推進会議には家族会代表者も出席してもらい、出された意見は職員で検討し、日々の業務に反映するように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員によるケアができるよう、法人内やユニット間の異動はできる限り行わないように努めている。またやむを得ず退職等がある場合は、利用者に対する影響に最大限配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として、定期的に行っている職員会議でテーマを決めて勉強会をしている。また外部研修に出席した場合は報告会を行い、内容を他の職員に周知している。	○	研修を行ってはいるが、研修計画がなく経験に応じた研修体制になっているとは言い難い。研修計画を作成するなど、より充実した職員育成の取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会で勉強会を行っている。また、他のグループホームを訪問する機会を作り、互いのサービスの向上や日頃のケアの振り返りの機会にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族に面会を行うだけでなく、入居前に数回にわたってホームに訪問してもらうなど、家族と協力しながら利用者が馴染むことができるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と共に生活する喜びを共有できるように努め、「介護をする」という一方的な立場にならないように取り組んでいる。話しかけ方や言葉使いなどにも、職員が主体となって互いに注意できるような雰囲気作りを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者一人ひとりの表情や言葉などを職員が詳細に記録することにより、希望や意向が把握できるように取り組んでいる。また把握が困難な場合は、家族から話を聞いたりしながら本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃から利用者や家族に要望を確認し、課題やケアのあり方について全職員で話し合いながら利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に評価することで現状を把握し、利用者・家族・職員と話し合いながらニーズに副った介護計画を作成している。また状態が変化した際は、速やかに介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院などが必要な場合は柔軟に対応している。また買い物などの希望がある場合も同様に、できる限り対応するよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医と連携をとり、必要な時に適切な医療が受診出来るよう支援している。またかかりつけ医が往診の帰り道に、利用者の様子を見に来るなどの関係作りができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、その都度かかりつけ医や家族及び職員などと話し合いながら全員で決定し、支援している。	○	重度化した場合、それぞれの入居者についての対応はできているが、現在のところ事業所として統一した方針があるとは言い難い。利用者や家族が安心して利用できるよう、全職員で話し合い方針の統一を図っていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねることなく、適切なケアを行うよう常に心がけている。また情報の管理についても適切に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているものの、職員の都合を優先することなく、利用者一人ひとりのペースに合わせて食事時間を変更するなど柔軟に対応している。入浴についても同様に、希望に応じた支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や片付けをするなど、利用者一人ひとりに役割ができています。また職員は利用者と一緒に会話をしながら同じものを一緒に食べ、楽しく食事ができる雰囲気づくりにも心がけています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望を尊重し、いつでも入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活歴を活かしながら、生け花・編み物・農業等、利用者一人ひとりが自分に合った役割や趣味を持ちながら楽しく過ごしている。またドライブや散歩など、外出機会を定期的に設けることで、気晴らしができるようにも心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物・散歩・ドライブ等、定期的に外出する機会をつくっている。また地域行事にも参加し、グループホームに閉じこもることがないように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵をかけることは全くなく、利用者が自由に過ごせるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行っている。また夜間を想定した訓練も行っている。	○	災害時にホームの職員だけでは誘導に限界があるため、地域の住民等と協力体制を確保し、災害時の連携を図っていくことが望まれる。また備蓄についても何が必要なのか、一度職員間で話し合っけて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がたてた献立を基本にし、季節の野菜を使った料理へ変更するなどのアレンジを行っている。また身体状況に合わせて刻み食にするなどの支援もを行っている。水分摂取量については、おおむね把握できている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く開放的で、木のぬくもりもあり、居心地のよい空間となっている。季節の花や小物を飾っており、生活感や季節感もある。また利用者はソファなど思い思いの場所で寛いでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族の写真等、利用者一人ひとりが大切にしているものを自由に持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるように支援している。		